

コロナを経て私達はどこへ

植松千代美

大阪市立大学理学部
附属植物園勤務

世界中を駆け巡り、今もあちこちで感染拡大を続けている新型コロナウイルス。ワクチンがない現状で、感染拡大を抑える唯一の手段が人と人との接触を減らすこと。「人」という漢字は、ヒトは一人では生きて行けない、二人で支え合うのがヒト、と教えています。この春、私は家にこもり、コロナの収束を待ちながらヒトたる意味を考えていました。

昔在宅勤務、今テレワーク。技術の進歩が在宅での働き方を大きく変えたのは確かでした。皆さんはどんな風に過ごされましたか？学校がいきなり休みになっ



夕暮れ時、武庫川沿いから久々に眺めた月と宵の明星。

て、面食らった親御さんも多かったことでしょう。政府の対応が後手後手に回ったことについては、また別の機会に。

医療の現場など命を守る最前線で働いている方々には感謝あるのみです。その医療を崩壊させないためのステイホーム。会議も授業もオンラインでできてしまうことがわかって、「出勤」の既成概念が崩れ始め

空の下、美味しい空気を吸って、ああ、農家でよかったです。

コロナ下でもサクラ、ヤマボウシ、アジサイと季節は巡り、食いしん坊の歳時記は山椒、タケノコ、梅仕事と続きます。一日四時間の通勤から解放されて、今年も旬を味わえた事に感謝。コロナを経て私達が目指すのは、ただ昔に戻る「ことでは無いはず。ではどこへ？」

ています。

農家の

知人曰く、

畑に出てい

たら、三密

なんて関係

無いの。青